

自由

国際ジャーナリスト組織『国境なき記者団』が発表した、今年の「報道の自由度ランキング」で、日本は調査対象の180カ国中、67位と、主要7ヶ国中最下位でした。最近の5、6年で日本の順位は悪化してしまったようです。

「自由」を辞書でひくと、自分の意のままに振る舞うことができること。また、そのさま。勝手気ままなこと。わがまま。他から強制・拘束・妨害などを受けないこと、とあります。現在私たちが使っているこの「自由」の意味は、明治時代に英語の・・・フリーダムやリバティの訳語として「自由」が採用されたことに強い影響を受けているようです。

「自由」を読み下せば「自らに由る」。もともと「自由」は「自らに由る」ということです。

そして仏教での「自由」は、「スヴァヤン」というインドの古い言葉を訳したもので、他によらずにそれ自体として成り立つ、という意味を表します。

「自らに由る」「他によらない」といえば、お釈迦さまの有名なお言葉が思い起こされます。

お釈迦さま最晩年のこと。激痛を伴う病から回復されたのち、ご自身が亡くなったあとのことを考えて、お付きの阿難へ語った言葉です・・・。

「この世で、自らをたよりとして、他人をたよりとせず、法をよりどころとして、他のものをよりどころとせずにあれ・・・。」

激流にたとえられる世の中であって、自分がたよりにできるのは自分自身であり、またお釈迦さまの教えである。だからこそ、他をたよりとせずに、お釈迦さまの教えをたよりにして、自分自身を調えることに専念しなさい、と伝えたのです。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

自分の意のまま、勝手気まま、わがままで他人を傷つけてしまう「自由」を生きるよりも、お釈迦さまの教えをたよりに、「自らに由る」ことのできる自分自身になるようにと、自らを調べて生きていきたいものです。

— 終 —